

報告事項

「震災の記憶を語り継ぐ」の開催結果について

「震災の記憶を語り継ぐ」の開催結果について別紙のとおり報告します。

平成25年10月28日

鳥取県教育委員会教育長 横濱純一

「震災の記憶を語り継ぐ」の開催結果について

図 書 館

1 概要

昭和18年9月10日に起こった「鳥取大震災」から70年が経過したが、残された資料も限られ、記憶を持つ人々も少なくなっている。このため、図書館では、大震災の体験談を地域の記憶として集め、将来へ伝えて行くため、「震災の記憶を語り継ぐ」を開催した。

この取組は、東日本大震災を契機に、第1回目を平成23年9月10日に開催し、今回は、第3回目となる。

2 開催日時 平成25年9月7日（土） 午後1時30分から午後3時

3 参加人数 80名

4 内容

(1) 基調講演 「震災体験の聞き取り調査から」

鳥取大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 浅井 秀子准教授
震災体験者への聞き取り調査結果を、体験者へのインタビュー映像を交えながら紹介した。
(体験者のインタビューはDVD化される予定)

(2) 座談会 「語り合う震災の記憶」

会場にお越しいただいた体験者6名に、浅井准教授によるインタビュー形式で体験談を発表していただいた。



体験者による体験談をインタビュー形式で発表

5 体験者の主な発言内容

- ・自宅で被災し、机の下敷きになり脊髄損傷。母親も亡くなる。その瞬間、1秒か2秒静まりかえり、その後、聞いたこともないような大きな喚声が上がった。人間の力ではどうしようもないこともあるが、家を補強しておけば良かったと思った。
- ・今までつらい体験は語るべきではないと思っていたし、聞かれることもなかったが、今回、震災のこわさ、体験した恐怖を伝えていかなければならないと思い、初めて語った。

6 成果・反響

- ・一昨年から当館で開催した「震災の記憶を語り継ぐ」は、大きな反響を呼び、今年、いろいろな講演会や新聞・テレビ等で被災者が体験談を話すきっかけとなった。また、鳥取市では、体験者のインタビュー入りの防災啓発DVDが作成された。
- ・県立図書館が開催したこの会も、参加者数が毎回増え、また多くの新聞やテレビでとりあげられ、県民の方に、災害の記憶を風化させてはいけないという意識が高まった。
- ・今回の座談会と浅井准教授が行ったインタビューは、CD化、DVD化され、県立図書館の郷土資料として保存されることとなった。